

平成 31 年度における保護林モニタリング調査の計画について
(モニタリング間隔の検討等)

1 モニタリング間隔の基準（保護林設定管理要領（平成 27 年林野庁長官通知）から抜粋）

第 5 モニタリング

2 モニタリングは、各保護林の状況を勘案し、以下のいずれかの間隔で実施するものとする。

(1) 5 年未満ごと

近い将来に当該地域における絶滅の危険性が極めて高い個体群を保護している保護林

(2) 5 年ごと

ア 遷移の途中段階にある保護林

イ 復元を行っている保護林

ウ 保護対象の個体群の持続性に問題がある保護林

エ 保護林外部からの影響を受けている保護林

オ 鳥獣・病害虫被害及び移入種による影響が顕著にある保護林

カ 温暖化による影響が顕著にある保護林

キ その他、短期間で大きな変化が想定される保護林

(3) 10 年ごと

(1) 及び (2) に該当しない保護林

2 過去の保護林管理委員会でのモニタリング間隔等に関する意見（議事概要から抜粋）

- 連続的に調査していて特に変化がないなど、安定的な状態であれば、モニタリング調査を 1 回飛ばすとか、そうした方法も考えてみてはどうか。(H28 第 3 回)
- モニタリング期間を 10 年に延ばした場合、前回の調査からかなり違っているのが見えてくるので、違いが見えやすい反面、違ってきした場合の対策・対応が取りにくいのではないか。5 年ごとのまま、モニタリング箇所を減らすことを考える方が経費の節減になるのではないか。(H28 第 3 回)
- 植物側から見ると 5 年で変化することはほとんどない。動物、特にシカなどは 5 年でかなり変わってくるので調査間隔をあけることは難しい。また、保存利用地区の変化は大きいかもしれない。(H28 第 3 回)
- 例えば動物調査にセンサーカメラを導入するなど調査内容を充実させると、よりコストがかかることとなる。問題が生じている保護林では、丁寧に調査することも想定されるので、コスト面から調査間隔を広げることも必要と考える。(H28 第 4 回)
- もっとメリハリをつけて調査間隔 10 年のものを増やしたり、5 年未満のものを作ったりしても良いのではないか。(H28 第 4 回)
- 温暖化の影響を捉えるためには、モニタリングの間隔を延ばすことが有効ではないか。(H29 第 2 回)

平成 31 年度 保護林モニタリング調査実施箇所の検討

森林計画区	署名	保護林名称	保護林区分	要領による区分							H31 実施	間隔 (年)	前回調査結果及び委員会意見	
				1	2									3
					ア	イ	ウ	エ	オ	カ				
東青	青森	八甲田山	生物群集保護林								●	10	—	
		後潟ヒバ	希少個体群保護林								●	10	—	
		眺望山ヒバ	希少個体群保護林								●	10	—	
北上川上流	盛岡	早池峰山周辺	森林生態系保護地域			●				●	○	5	シカの生息を確認。顕著な被害は確認できず	
		葛根田川・玉川源流部	森林生態系保護地域								●	10	—	
		山王海ネズコ遺伝資源	希少個体群保護林								●	10	—	
		北上山御堂松	希少個体群保護林			●		●		●	○	5	稚幼樹が少ない、松枯れの可能性	
		男助山鶯宿スギ	希少個体群保護林								●	10	—	
宮城南部	仙台	船形山（御所山）	生物群集保護林								●	10	—	
		蔵王	生物群集保護林					●		●	○	5	（アオモリトドマツの枯死）	
		斗蔵山ウラジロガシ遺 伝資源	希少個体群保護林								●	10	—	
		青葉南モミ	希少個体群保護林								●	10	—	
		鉤取山モミ	希少個体群保護林								●	10	—	
		弥太郎山針葉樹	希少個体群保護林								●	10	—	
子吉川	由利	鳥海山	生物群集保護林								●	10	—	
		鳥海ムラスギ遺伝資源	希少個体群保護林								●	10	—	
		獅子ヶ鼻湿原	希少個体群保護林					●		●	○	5	ナラ枯れの可能性	

注) 前回調査結果及び委員会意見欄の () は、前回 (5年前) 調査では特段の変化等がなかった保護林において、顕在化している問題を記載。

平成 31 年度 保護林モニタリング調査とあわせて発注を検討する調査

森林計画区	署名	保護林名称	保護林区分	調査の概要等
久慈・閉伊川	三陸北部	早池峰山周辺	森林生態系保護地域	平成 30 年度に設定したプロット及び防鹿柵設置箇所周辺の調査 (設置箇所周辺のセンサーカメラ撮影、柵内外の植生調査等)
北上川中流	遠野			
宮城南部	仙台	蔵王	生物群集保護林	平成 25 年秋から枯死が発生した蔵王地域のアオモリトドマツ林分の現況調査 (ドローンによる写真撮影、前回 (H29) 調査との比較等)
最上村山	山形			